

科目名 (英語表記)	地域デザイン特論 (Regional Design)						ポートフォリオ
学年・学科	1年・建築学専攻		単位・期間	選択2単位・後期週2時間(合計30時間)			<学生が記入する上での注意事項>
担当教員	杉本弘文	連絡先	建築学科棟2階 第1研究室	オフィス アワー	月曜日 16:20~		【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。
【授業目的】 地域デザインに関する基礎的な計画論として地域づくりの方法やプロセス、多主体の参加と協同・協働による種々のデザインおよびマネジメントについて説明できる能力を身につける。また、都市・建築・まちづくりの事業化のための手法としてひともの・こと・コミュニケーションに視点をあて、地域づくりのための発想法を学ぶ。地域デザインのあり方について具体的方法論を用いて表現し、地域づくりの場面で応用できる素養を見につける。							【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。
【履修上の注意】 1)本講義は様々な建築・施設的设计や都市設計(まちづくり)につながる科目である。自らの作品づくり・提案や地域での実践活動に必要な創造(想像)力や思考力を養う機会とすること。 2)本講義の評価は適宜行うレポート及び発表により行う。 3)授業で得る知識は設計競技や資格取得(福祉住環境コーディネーター等)につなげるためのものである。各自が積極的に課外活動に取り組むための機会とすること。							【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。
【事前に行う準備学習や自己学習】 1)講義内で紹介する方法論や手法をより深く理解するためには、自己学習として、座学のみならず受講者自らが自発的に建築・都市空間を体験したり、地域での活動に参加することが重要である。地域での実践の機会があれば積極的に参加すること。							【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。
【達成目標】 1)すまいづくり・まちづくりの近年の動向を理解し、これからの建築・都市空間の在り方を発案できる。 2)基礎的な生活・居住環境やコミュニティの計画・デザインの手法を理解できる。 3)少子高齢化・人口減少社会の進展とともに新たな局面を迎えつつある地域づくりに関して、創造的な地域づくりのための計画論および参加のデザイン手法を理解できる。 4)生活環境デザインやアーバンデザインの手法を使って、実践的な活動を提案・実施できる。							ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。
学 習 到 達 目 標							<教員が記入する上での注意事項> 教員は、◎が付いているところだけを記入すること。
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 (A)	標準的な到達レベルの目安 (B)	未到達レベルの目安 (C)				ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。
評価到達目標項目1	近年のすまいづくりやまちづくりの傾向を把握していると共に、これからの都市・建築空間の在り方や整備手法等を提案できる。	近年のすまいづくりやまちづくりの傾向を把握し、実例における手法や取り組みについて説明できる。	近年のすまいづくりやまちづくりではどのような手法が用いられているかを理解している。		【自己評価】 A ・ B ・ C		
評価到達目標項目2	建築計画・都市計画・設計の手法を十分に理解し、適切な手法を用いてすまいづくりやまちづくりの提案ができる。	基礎的な建築計画・都市計画・設計の手法を理解し、地域の持つ課題に即した適切な手法を選択できる。	基礎的な建築計画・都市計画・設計の手法を概ね理解している。		【自己評価】 A ・ B ・ C		
評価到達目標項目3	生活環境デザインやアーバンデザインの手法を十分に理解し、実在地域でのまちづくり活動等に活用できる。	生活環境デザインやアーバンデザインの手法を理解し、自分の提案作品に応用できる。	生活環境デザインやアーバンデザインの手法をある程度理解し、実例の説明ができる。		【自己評価】 A ・ B ・ C		
評価到達目標項目4					【自己評価】 A ・ B ・ C		
到 達 度 評 価 (%)							
評価方法	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
指標と評価割合			80	20			100
知識の基本的な理解			30				30
思考・推論・創造への適応力			30				30
汎用的技能			5	10			5
態度・志向性(人間力)			5	5			10
総合的な学習経験と創造的思考力			10	5			15
【教科書】 なし							
【参考資料】 日本建築学会計画系論文集、まちづくりの教科書シリーズ(日本建築学会編【まちづくりの方法】、ISBN:978-4621085912他)、建築系学生のための卒業論文の書き方(井上書院、ISBN:978-4753010561)、まちづくりデザインのプロセス(日本建築学会編、ISBN:978-4818922143) その他適宜紹介する							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				【JABEE基準との対応】			
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(B) (d) (e)			

【授業内容】			【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授 業 要 目	内 容	時 間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1	
(1) 地域デザインとは	地域デザインとは何か 地域デザインのための基礎知識① －地域特性を把握するための手法 地域デザインのための基礎知識② －合意形成のための手法とプロセス 地域志向のまちづくり・まち育て① －宮崎県の地域特性と地域デザインの実態 地域志向のまちづくり・まち育て② －地域づくりに関するグループディスカッション(WS)	1 2 2 2 2	【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)
(2) 地域の再生・再活性化	中心市街地の活性化 既存ストックの再生・活用方法 コミュニティアーキテクトの役割と機能 地域再生に関するグループディスカッション(WS)	2 2 2 2	
(3) 地域マネジメントとは何か	コミュニティビジネスの基礎知識 コミュニティビジネスの発想法と創造手法 都市マネジメントの方法	2 2 2	
(4) 今後の地域づくり・まちづくり	超高齢社会・人口減少社会における福祉のまちづくり 超高齢社会・人口減少社会におけるコミュニティデザイン	2 2	
(5) まとめ	グループディスカッション(WS) －SDGsと地域デザイン	2	
		合計時間	30
			【総合達成度】 総合評価の点数()
【備考】			【評価の実施状況】(◎教員は総合評価を出した後に記入する。)